

1 事業名 ボランティア活動入門セミナー

2 必要性

「青少年の奉仕活動・体験活動の推進方策等について」（中央教育審議会答申・平成14年7月29日）を踏まえ、青少年がボランティア精神を育み、生涯を通じて様々な場面でボランティアとして活躍できる人材を育成する必要性は従来から指摘されている。多くの青少年が、ボランティア活動を通して、社会にとって有用な人材として活躍するための支援をすることは、青少年教育施設の使命である。

また、ボランティア活動に参加する青少年の活躍の機会を広げ、あらゆる活動の中でリーダーシップを発揮しながら活躍できる青少年を育成する事業は、社会からの要請があるところである。本事業は国立青少年教育施設が有する機能を最大限に活かし、青少年にボランティア活動に関する学習の機会を提供するものであり、主体的に社会に参画しようとする態度を養成するものである。

3 趣 旨

ボランティア活動を始めようとする青少年に、ボランティアについての学びの場を提供することで、ボランティア精神を育むとともに、社会の様々な場面で主体的に活動することのできる人格の形成に資する。

4 後 援

島根大学、島根県立大学

5 期 日

- I 平成26年5月9日（金）～5月11日（日）
- II 平成26年5月23日（金）～5月25日（日）

6 参加者

- (1) 募集対象・人数 ボランティア活動に興味関心のある大学生・青少年 各回30名
- (2) 参加人数 I 50名（左記以外にボランティアスタッフ10名の参加）
II 50名（左記以外にボランティアスタッフ11名の参加）
- (3) 参加者分析 大学生・青少年各回30名の募集に対して、定員を大幅に超える50名ずつの参加があった。その内訳は、下表のとおりである。参加者の本事業への参加のきっかけは、各大学で実施した説明会での説明を聞いて興味を持ったことが大半であり、「友人・知人に誘われて」参加した参加者も多かった。

所属	人数		合計
	I	II	
島根大学教育学部	38名	34名	100名
島根県立大学短期大学部（出雲キャンパス）	7名	13名	
島根県立大学短期大学部（浜田キャンパス）	5名	3名	
小計	50名	50名	

7 講師等

出雲市消防職員 12 名

8 参加経費 3,500 円

9 事業の内容

(1) 事業の特色

本事業は、当施設におけるボランティア養成の入門編に位置づけ、人間関係能力・問題解決能力などのソフトスキルや野外炊飯の安全管理や指導法等のハードスキルなど、ボランティア活動を実施する際に求められる基礎基本となる事項を学ぶ機会を参加者に提供するものである。

また、国立青少年教育振興機構の法人ボランティア養成共通カリキュラムをプログラムに反映させ、今後当施設でボランティア活動を希望する者に対して、法人ボランティア登録の機会を提供するものである。

さらに、現在登録している法人ボランティアに事業運営の補助を担わせることで活躍の場を提供し、ボランティア活動に携わる技術や意識の向上を図る。プログラム構成については、8月および1月に実施する教育事業「小学生チャレンジキャンプ」や10月に実施する教育事業「さんべ祭」および2月に実施する教育事業「さんべミニ冬まつり」の企画・運営や、その他の教育事業の運営補助などの活動に繋がるよう工夫した。

近年、本事業に対する参加需要が高まっていることを考慮し、平成26年度は同プログラムを二度実施し、これに応えることができるようにした。

(2) プログラムデザインと企画のポイント

プログラム構成のねらいとして、①ボランティア概念の基礎基本の学習、②具体的な活動プログラムに関する知識・技術の獲得、③今後の活動の基本となるネットワークの形成の3つを位置づけた。

参加者がより効果的に学びを深めることができるようにグループ単位での活動を多く設定し、各グループに先輩ボランティアを1名ずつ配置した。また、先輩ボランティアの指導する機会を多く設定することで、参加者に当施設でのボランティア活動をイメージできるようにした。さらに、参加者に対する指導は、先輩ボランティアにとっても、個人のスキルアップにつながる機会であると考え、参加者、ボランティアスタッフの双方に学びがあるプログラムとした。

プログラムの一部の企画・運営を先輩ボランティアに依頼し、平成26年4月に実施した「ボランティア集会Ⅰ」の参加者を中心に企画を進めた。先輩ボランティアから「三瓶でのボランティアの良さや楽しさを知ってもらいたい!」、「次は仲間としてまた三瓶に帰ってきてほしい!」という参加者に対する声だけでなく、「ボランティア活動入門セミナーを通して自分たちも成長したい!」など自分たちの成長に関する意見も挙がり、目標を立てた上で企画・運営に臨んだ。

平成23年度から同様のプログラムを実施しており、プログラムの流れや時間配分などスムーズに実施できたため、平成26年度も同様のプログラム構成で実施した。

1日目・2日目は、体験を通して学び、最終日に「青少年教育の理解」「ボランティア活動の意義」などの概論を学ぶことで、2日間の活動をふりかえりながらボランティア活動の概要を学べるようにした。

(3) 広報のポイント

島根県内の大学が実施するボランティア活動等に関する説明会に出向き、事業への参加を促した。また、島根県内および広島県内の大学・専門学校に開催要項を配付し、設置してもらった。

説明会では当施設職員の他に先輩ボランティアにも参加してもらうことで、説明会に参加した学生は直接具体的な話を聞くことができた。

さらに、今後のボランティア活動に計画的に参加できるように、当施設が募集する年間のボランティア活動を記載したチラシを作成した。

(4) 日程表

1 日目 (金)	20:00		20:30		21:00		22:00		23:00	
		受付	オープニング		青少年教育施設の現状と課題 「交流の家ってどんなところ？」 「心と心をつなぐアイスブレイク」		入浴	就寝		
2 日目 (土)	6:30 9:00		12:00 14:00		17:00 19:30		21:00		23:00	
	起床 つどい 朝食	救命救急法 「野外で大切な 人を守るために」		昼食	プログラム体験① 「竹を使った パウムクーハン作り」		つどい 入浴 夕食	プログラム体験② 「火をともし キャンドル体験」		交流 就寝
3 日目 (日)	6:30 9:00		12:00 13:00		16:00					
	起床 つどい 朝食	青少年教育の理解 ボランティア活動の意義		昼食	青少年教育施設におけるボランティア活動の理解 「さんボラ体験記」「ふりかえり」 クイズ				解散	

(5) 内容及び講師

① 講義・演習「青少年教育の理解」

国立三瓶青少年交流の家 藤江 龍

- 中央教育審議会答申や国立青少年教育振興機構が実施した各種調査研究の報告を基に、青少年の実体や体験活動の必要性について説明した。

② 講義・演習「ボランティア活動の意義」

国立三瓶青少年交流の家 藤江 龍

- ブレインストーミング法や様々なワークショップ（二人の家、漢字探しなど）を用いて、グループごとに「ボランティア活動とは？」について考え、全体でその考えを共有した。





講義「ボランティア活動とは？」

参加者全員で記念撮影

③講義・実習「青少年教育施設の現状と運営」

国立三瓶青少年交流の家 藤江 龍

龍

- ・当施設で実施しているスライドを用いたオリエンテーションや朝夕のつどいへ参加することで、青少年教育施設の役割・運営について説明を行った。



朝のつどいでスピーチを担当



夕べのつどいでの交流



講義「青少年教育施設とは？」

④演習「青少年教育施設におけるボランティア活動の理解」

国立三瓶青少年交流の家 藤江 龍

龍

- ・当施設の実施する教育事業について先輩ボランティアの体験をもとにした劇を披露したり、活動毎に別れて体験談を話したりすることで説明を行った。
- ・国立青少年教育振興機構の法人ボランティア制度について、登録の流れや手続き、待遇等の説明を行った。

⑤活動スキル実習「救命救急法」

出雲市消防職員

- ・人体模型を用いて、AEDの使用も含む心肺蘇生法をグループに分かれて実施した。



講義「大切な人を守るために」



救命救急法「心肺蘇生法の実践」



救命救急法「AEDを用いた応急手当」

⑥活動スキル実習「野外炊飯」

国立三瓶青少年交流の家 今井 隆雄

雄

- ・安全管理や環境問題を意識しながら、当施設で提供している活動プログラム「バウムクーヘン作り」を8つのグループに分かれて実施した。



バウムクーヘン手順説明



プログラム体験「バウムクーヘン作り」



バウムクーヘン完成

⑦活動スキル実習「キャンドルのつどい」

国立三瓶青少年交流の家 藤江

龍

- ・先輩ボランティアが企画した活動やレクリエーションゲームを実施した。



先輩ボラ企画「2枚の写真」



先輩ボラ企画「ポーズゲーム」



プログラム体験「キャンドルのつどい」

(6) 運営のポイント

参加者が多く、一人ひとりのねらい（目標）を全体で共有し、ふりかえりをする時間が十分に確保できないため、ねらいなどを一人ひとりが画用紙に記入し、掲示することで他の参加者や先輩ボランティアの思いを共有できるようにした。

事業全体を通して参加者同士や参加者と先輩ボランティアとの関わりを重視し、生活面については先輩ボランティアが指示、指導するようにした。グループ編成の際は、できる限り他の大学や初対面の者同士が同一グループになるように配慮し、グループ毎に先輩ボランティアを配置するなど、コミュニケーションが図れるようにした。また、この他にも運営全体の補助をしてもらった先輩ボランティアも配置し、全体で指示や指導する場面を多く設定した。職員は参加者の安全管理、健康管理に努めた。

(7) 安全管理のポイント

所外での活動については、事前に活動場所の踏査を行い、安全確認を行った。また、野外炊飯の活動では刃物や火気の使用に十分に注意を払いながら指導した。さらに参加者に対して朝夕のつどい後で健康状態の確認を行った。

(8) アンケートの満足度・主な記述

I	満足度（参加者 50 名中）	満足 47 名（94.0%）	やや満足 3 名（6.0%）
II	満足度（参加者 50 名中）	満足 45 名（90.0%）	やや満足 5 名（10.0%）

- ・とても充実していた。一生大切にしたい経験になった。
- ・県内の大学生同士でネットワークが広がった。

- ・ 初めて会って初めて話す人も多く最初は不安もあったが、最後はとても楽しく終わった。これからもたくさんのボランティア活動に参加して自分の人間性を磨いていきたい。
- ・ 普段の大学の講義では決して学ぶことのできないことを学ぶことができた。
- ・ 今回の事業に参加して体験活動の大切さを再認識することができた。この事業への参加理由は、自分の知らない新しいことを見て、知りたいと思い参加した。初めて会う人との交流から始まり、最終的には自分が考えていたようにたくさんのものを「見て・感じて・学ぶ」といったことが達成できたのでとても満足している。
- ・ 先輩ボランティアの動きは勉強になった。三瓶でのボランティア活動を通して自分の消極的な部分や人見知りを直していきたい。
- ・ ボランティアの意義について学ぶ際に一方的な講義ではなく、クイズやグループワークを用いて参加者に考えさせた点が大変有効な技術だと考え、吸収したいと思った。

10 成果と今後の課題

<成果>

- 各回とも募集人数を大きく上回る参加者があり、参加者全員が法人ボランティア登録をした。
- 今回は島根県立大学出雲キャンパスから20名、浜田キャンパスから8名の参加者があった。平成25年度に引き続き2大学3キャンパスの学生が中心となり、連携しながら今後の活動に参画してもらえることが期待できる。
- 参加者に実施したアンケートによると、「自分が考えていたようにたくさんのものを「見て・感じて・学ぶ」といったことが達成できた」や「これからもたくさんのボランティア活動に参加して自分の人間性を磨いていきたい」などボランティア活動に対する学びや今後の抱負など前向きな意見が数多くあり、本事業はボランティア活動についての学びを十分に提供できた。
- 参加者に実施したアンケートによると、「県内の大学生同士でネットワークが広がった」という意見があり、本事業の実施により参加者同士がネットワークを形成することにつながった。
- 本事業の1コマを先輩ボランティアが企画・運営した。約1ヶ月かけて企画し、大学において話し合いを進めてきたことで、この経験が先輩ボランティアにとっても学びの機会となった。

<課題>

- 本事業は参加者からの需要が大きく、平成26年度は二度に渡って実施し、より多くの参加者を受け入れることが出来るようにした。しかし、これを超える参加申し込みがあり、受け入れを制限することになった。平成27年度以降の本事業のあり方について再度検討していく必要がある。
- 本事業に参加し、新規に法人ボランティア登録をした者が100名いることから、平成25年度から継続して法人ボランティア登録している者も含めると登録者数が大幅に増加した。法人ボランティアの活動機会を確保するために、当施設が提供する活動だけでなく、周辺地域や学校団体などのボランティア募集要請の仲介役になるなど養成したボランティアの活用についても検討する必要がある。
- 本事業への参加があった大学の他に、専門学校等へも広報を行ったが事業参加にはいたらなかった。広報の方法を改善したり各学校のニーズを改めて把握したりするなど改善をしていく必要がある。

11 普及計画・普及実績

ホームページに要項や事業の様子などを掲載することで事業内容を社会に広く周知することがで

きた。

また、事業の写真を用いてスライドショーのムービーを作成し、法人ボランティアに対して Facebook に掲載することで新たに法人ボランティアに加わった参加者の活動の様子を周知した。

(担当：事業推進係 藤江 龍)